

第4回 特集

相模原事件の背景にあるもの 優生思想

昨年の相模原事件を受けて

第Ⅰ部 講演

① 利光恵子氏

第Ⅱ部

② 体験証言

③ 質疑

昨年相模原の「津久井やまゆり園」で障がい者が46名も殺傷されるという痛ましい事件が起きました。さらに不幸なことにこの原因が精神障がい者とその処遇にあるかのごとく流布されました。そして精神保健福祉法が改悪されようとしているのです。だが、この事件の背景にあるのは紛れもなく『優生思想』です。したがって再発防止策は、語られることの少なかった優生思想を理解し、これまで取られてきた優生政策の誤りをだすことから始めなくてはなりません。

(公社)大阪府精神障害者家族会連合会では相模原事件が1周年を迎えるに当たり、

〔優生思想〕の問題を取り上げることにしました。

平成29年8月19日(土)

開場 13:00 開演 13:30

アネックス・パル法円坂6階12号室

入場無料 先着100名

公益社団法人 大阪府精神障害者家族会連合会

【お問い合わせは事務局まで】 TEL06-6941-5797

利光恵子(としみつ けいこ)氏

立命館大学 生存学研究センター客員研究員、薬剤師、
「優生手術に対する謝罪を求める会」会員。

著書に『受精卵診断と出生前診断——その導入をめぐる争いの現代史』(生活書院、2012)、

『戦後日本における女性障害者への強制的な不妊手術』
(立命館大学生存学研究センター、2016)。